

武西・谷田の保全に向けて
市民グループと行政が同じテーブルにつく

印西市・白井市合同ミーティング

2006. 8. 20. PM 3:00～6:00

於:印西市市民支援センター2階



参加者:長谷川・ケビン・ショート・丹澤・岩本・齋藤・相馬(成)・米田・緒方・永瀬・上西・坪井・森田・
中條・坂巻・塚(義)・塚(初)・小山・相馬(な)・鈴木・一島・

印西市都市整備課:五十嵐

印西市生活環境課:伊藤

白井市環境課:藤咲

白井市都市計画課:酒井

.....計 24名

配布資料:『武西・谷田地区の自然環境保全に関する要望書提出までの活動史』

『ケビンのカントリーウオーク 小川が消えた 生き物寄せ付けぬコンクリート水路』

進行:丹澤さん

▽会合の主旨: **武西・谷田地区の保全を1つの核にして 印西市と白井市を含めた広い北総地域の自然環境を取り入れたまちづくりをどのように進めたらよいかの率直な意見交換をしたい。**

▽会合の流れ: ①自己紹介 ②経緯説明.....長谷川先生
③計画作りと報告.....長谷川先生 ④意見交換
⑤今日の議論をふまえて現時点で自分に何が出来るかを1人1人コメント
⑥今日の成果と課題.....長谷川先生

②現到達段階までの経緯:

・ 5/18 —— 千葉県知事・企業庁長へ 武西・谷田の保全に関する『要望書』を提出

・ 6/15 —— 県の自然保護課・企業庁職員による現地視察
大槻副知事による現地視察(要望書をふまえ、吟味され、視察に至る)

県は、武西・谷田地区が千葉県における生物多様性保全の観点から貴重な地域であるとの見

解を示し、印西市の生活環境課、白井市の環境課担当職員に武西・谷田地区の保全計画の現状

をヒアリングした。

現状では両市とも保全計画が白紙状態にあるため、今後、保全案を作成するにあたって、市民

グループと印西・白井市の行政が協働して具体化していくことの必要性を強く指摘された。

↓

具体的保全策の提案に向け、早急に市民・両市の足並みを揃える必要性

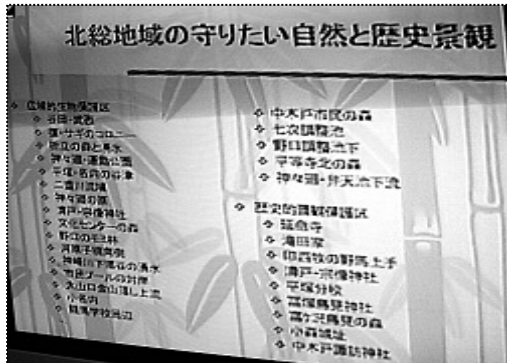
- ・ 8/20 ——行政と市民が顔合わせをして、保全施策について共同で検討していく
第1回目の合同ミーティング

(要望書提出までの経緯については、別表参照)

③計画作りと報告:

地域を守ることを真剣に考えるにあたり、私たちが守りたい1つ1つの場所が、全体の中でどういう価値が有るのかをお互いに認識するため 大事にしたい、守りたい地域をリストアップ。

◆『北総地域の守りたい自然と歴史景観(白井市版)』



概要:1) 広域的に生きものを守る場所

2) 歴史的景観やそこに住む人達と里山的景観
を守ってほしい場所

1ヶ所1ヶ所を写真+文章で紹介し、情報公開する
資料づくり。

※印西市も保全地域のマッピングが終わっている
ので、同じ作業を進めることを確認。

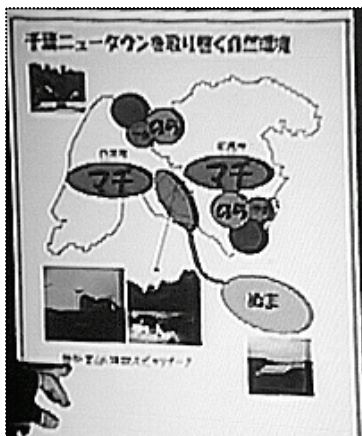
◆『北総里山クラブ 会報(2006. 8~2007. 12 予告)』



概要: 話し合った勉強会の資料を冊子としてまとめ、発信する。
冊子を共有し、話し合いを共有し、保全の施策、話を持ち
かけるときの資料としていく。
みんなの持っているものを集めていこう。

※PDFにして、個人個人パソコンからダウンロードして
情報を共有できるようにする。

◆『谷田・武西のガイドブック(案)』・・・ガイドブックは保全したい場所の私たちはこのように
楽しみたい、学びたい、管理していきたいという思いを具体的、かつビジュアル豊に表現するための
手段。作りあげていく作業を共有することで、保全の目標が明確になり、やるべきことが見えてくる
はず。作ることが保全の目的ではないので 随時、具体策を盛り込んでいく。



概要: ○武西・谷田地区を知ってもらうのは重要だが、人が入
る事により、自然を痛めつけていることを認識し、自然
との接し方、マナーを伝えるものを作りたい。

- 地図
- 生態系の勉強・モニタリングの仕方・外来種の対策・
草刈頻度など人とのかかわりの証拠・・・
- 景観と生きものの写真
- 目録・謝辞・索引を添える

NEW TOWN白井市と印西市の真ん中に 蝶番のように武西・谷田地区があり、この地域の自然を守ることに力を尽くしていこう。

——都市と里山に隣接した== **ビオリザーブ**== ケビン・ショート氏のコメントを添えて・・・——
 ——ここを守ることを通じて地域全体の自然を守ることに力を尽くしていきましょう・・・丹澤さん——

④ **意見交換**

ケビン・ショートさんより、武西・谷田(ビオリザーブ)の保全是、生物多様性を保全する大都市型(自然がポツン、ポツンと残っている)保護に留まってしまうのではないかと。千葉ニュータウンには谷津とは別に一般的な普通の広い里山(普通の小川、普通の田んぼ)が有る。それをどうすべきか? 日本の里山自然をいい形で残そうとしたら、河川をどのように残していくかがKEYとなるのでは?との意見が出、それを皮切りに 非常に活発な意見交換。



自然再生をしないような垂直2面張りの河川改修工事は、農業廃水路として以外の機能を失い、景観も見苦しく、子供にも非常に危険。河川の工事のやり方によって、地域の財産を作っていけるかどうかに分かれる。今、一番の緊急課題だと思います。

今後、どのように 河川改修がなされるのか、公共団体がどう考えているかを知りたいという要望。白井市、印西市の河川改修の実態について、また 河川改修のやり方の違いは、農業政策と深いかわりがある。

生態系を含む里山の保全是 人間が行っている河川の管理が重要。水系ネットワークが里山を生かしたまちづくりに大切だという認識を水管理をしている今までの様々な行政の中で 1つの意識として体系化されていなかった。河川基本法の具現化をこの武西・谷田から。……………等等

武西・谷田の保全から 北総のまちづくりへ

地域への外部(都市部から)資金導入

やるべきこと

- ・計画書づくりと報告
- ・利用の手引き (ガイドブック)
- ・ふつうの里山保全是どうすべきか (農家の生活基盤を考える)
- ・広域の水管理 水利計画との整合性
- ・ニュータウン計画と連動した 雨水・排水計画のあり方

できること

- RCN, しろい環境塾の活動実績に学ぶ
- 水系を通して里山ウォーク 一般へのアピール(RCN)
- 勉強会に基づいて 国土交通省・農政省への ロビー活動

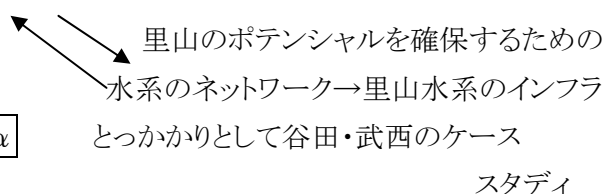
やってほしいこと

- 河川は私有地ではない
- 税金を使う河川行政という
- 認識をすること

里山を生かした街づくりの水系インフラ整備と体系化を地域全体をカバーし提案

・企業庁→公団の河川管理の
ポリシーの変化

農家の理解+α



⑤今日の議論をふまえて 自分に何が出来るかをコメント

- ・里山保全に関する意見交換が出来る機会をもてたのが1つの成果。
- ・河川改修に関しては、治水の次に農家の方の発想があると思われるので 私たちの意向が一般市民の求める形とは思えない。
- ・武西・谷田に関しては 水系とは別に 牧の文化が残る草地があるので、歴史的バランスを考え、価値を見ていき、多くの市民に理解をして頂く。
- ・今、やっている活動の継続が自分にできること。
- ・子供が野外で遊んでいる姿を見ないので、遊ぶ場所、環境教育の観点を考えたい。
- ・里山保全、ビオトープなど、地球温暖化に関係のある大切なことなので、緑豊かな武西・谷田を大切にしたい。もっと色々勉強したい。
- ・湧水が出ている場所なので大切にしたい。
- ・沢山の泉を守りたいという気持ちを持ち続けたい。
- ・活動団体に属する人々の具体的な声を聞けてよかった。
- ・このような会合を積み重ねていくことが 大変有意義だ。
- ・はじめてこのような話し合いが出来、とても有意義。一緒に考え、発言し続けていくことが、守ることにつながると思う。
- ・印西環境フェスタで 印西の自然と農業はいかに大切か、美しい地域に住んでいる事をPRしたい。
- ・きれいな写真の提供をお願いしたい。
- ・神埼川から二重川にかけていつも散歩している。この場所を人がふれあう場所として 喜んで行きたい場所として保全していきたい。人を入れないで保全するのは無意味。
- ・谷田には、昔から大切にされ、今も尚湧水の風景を保っている場所がある。また、原には昔ながらの原特有の植物が残っている為(地元の農家の人ですらその存在を記憶にしか留めていない)、この地域を保全をしていきたい。
- ・一般市民・農家の人との意識のずれをどう埋めていくかが、今後の自分たちの大切な作業になる。
- ・印西市役所の方から 前向きな意見を聞けて大変嬉しい。
- ・2面張りの川では、両生類・爬虫類は殆ど生息・行き来できず、それに伴いそれをエサとする殆どの生きものが減少するので、やさしい河川改修を心がけて欲しい。
- ・人間が生き方を変えない限り、自然は守っていけないと思う。保全については、みんなとどう力を合わせるかを考える。
- ・東京からそう離れていないが所にこんな自然が残っていることが貴重。散歩でき、整備され、安全・安心にできるようにしたらいいと思う。
- ・自分の住んでいる身近な自然をよく知ることから、地元の人たちでどうこの自然を守っていくかを提案したい。
- ・地元の子供たちに、「外に出ようよ。住んでいるところは こんな所だよ。」と身近な自然とのふれあいかたを発信していきたい。
- ・武西・谷田をそっくり残すというのなら、人を入れないほうがいい。マナーが悪いので希少植物がなくなるのは必至。
- ・ビオトープとして残すか、隣接する民有地を含め一般の里山として残すのか、後者の場合、地元の方の理解が必要となる。

⑥今日の成果と課題

厳しい意見ですが、地域の自然を守るためには、もっと賢くならないといけないことがたくさんあります。自然そのものをよく知ることはもちろんですが、国や市町村の制度、計画を勉強して、私たちの思いや希望を具体化するための作戦を練っていきましょう。

▽里山水系マップ作り・・・・・・・・水系の体系化する。出来たものを利用の手引きに汲み入れていく。

▽県知事の判断もあり、印西・白井に目を向けられるようになると思う。

この地域の環境を自ら治めるために、印西・白井市は情報交換をやって欲しい。

両市には生物多様性の保全を考え、計画を具体化し、促進してほしい。

▽『北総地域の守りたい自然と歴史景観』の印西版を形にしていく。

上記を含めた3つのデジタル広報紙の編集を推し進めていく。

▽次回の勉強会・・・・・・・・・・9月の半ば以降